石心会グループ
社会医療法人財団 石　心　会
社会福祉法人 石心福祉会
医療法人社団 東京石心会

編集　石心会グループ
発行人：石井 暎禧　　編集長：辻田 征男　　副編集長：高本 哲男
〒212-0013　川崎市幸区堀川町 580 ソリッドスクエア東館 4 階
TEL.044-511-2266（代）FAX.044-540-1135　http://www.sekisinkai.or.jp

石心会 BULLETIN～季刊
海燕
うみつばめ　No.45　2010.4.22

2010年度診療報酬改定の意味するもの。

社会医療法人財団 石心会 理事長 石井 暎禧

今回の診療報酬改定は、急性期の入院医療への重点配分という、これまでにない特徴を持っている。これは、実質的にはマイナス改定がプラス改定となった事以上に大きい。厚労省もこれを「医療崩壊」への対応策ととらえている。

今、政権への批判が世間に渦巻いてはいるが、この事に関しては民主党政府が診療報酬改定における日本医師会執行部の影響を削いだことにより、可能になったのであり、医療制度改革の動きを実質的に促進したことになったのは間違いない。

社会の変化に追いつけない医療供給システムという状態がいわゆる「医療崩壊」であり、それを改善するため、自民党政権時代から政府のさまざまな審議会や検討会において立案され提案されてきた施策は、開業医の利益と結びつかないとされ、日本医師会執行部の抵抗や反対によって遅れてきた。

日本医師会が医療改革への抵抗勢力であることは、原中執行部によっても変わることはないであろうが、医療改革の方向は、すでに定まっており変わりようがない。

「チーム医療の重視、特定看護師」を「医師の特権の剥奪」ととらえ、「地域完結型医療、地域連携パス」を「医療機関の階層化、開業医の抑圧」ととらえ、「在宅医療、プライマリーケア」を「開業医の負担」として、「包括払い」を「医療費の削減」とのみ考え、防衛的に抵抗してきた人々は、国民の期待する医療の方向を見失って、歴史から取り残されるであろう。

国民の必要とする医療を崩壊させないために、現在求められているのは、国の発信してきた諸政策を、地域の各医療機関が、主体的にとらえ、一医療機関完結の医療ではなく、おのおのの特性を活かして、分担し協働して地域の医療の質を高めることである。その意味で、地域の開業医師は、病院と対立するものでなく、本来、共に協働して地域医療を支える同志である。医療技術の進歩の中では、病院であれ診療所であれ、一医療機関のやれることは限られている、地域のすべての医療機関は、緊密に手を組んで進まなければならない。病診連携・病病連携を紹介、逆紹介にとどめるのではなく、プライマリー救急への開業医の参加、地域連携パスの拡大、地域病院を開業医の研修の場として活用するなど、多様な連携が必要であろう。すでに地域医療計画や診療報酬の方向、病院の再編計画などで、このような方向は示唆されている。

本誌タイトル『海燕』は、M.ゴーリキーの散文集《海燕の歌》(1901)に由来しています。その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海、戸惑い騒ぐばかりの鴎らの群れを尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

TOPICS 1 「断らない救急」に向けて

救急搬送患者の収容困難が社会問題化する中、これとは対照的に川崎幸病院（203床）と狭山病院（349床）では救急受入件数が大きく増加しています。川崎幸病院の2009年度救急受入件数は5,195件。これは前年比で6.0%の増、前々年比では33.8%増もの伸びを示しており、2009年度における川崎市内医療機関別救急受入件数では川崎市立川崎病院（733床）に次ぐ数字となっています。

一方、狭山病院の2009年度救急受入件数は5,174件で、こちらも前年比6.0%増と堅調な伸びを示しています。救急受入件数の増加は両院における緊急手術件数や新入院の増加にもつながっており、まさに急性期病院救急医療の本領を発揮している状況です。

このような救急受入の増加には、両院が高度急性期病院として救急医療を中心に据えた機能整備と病院運営を推進していることがあげられますが、そこには両院における不断の救急体制整備とスタッフの奮闘があることはいうまでもありません。

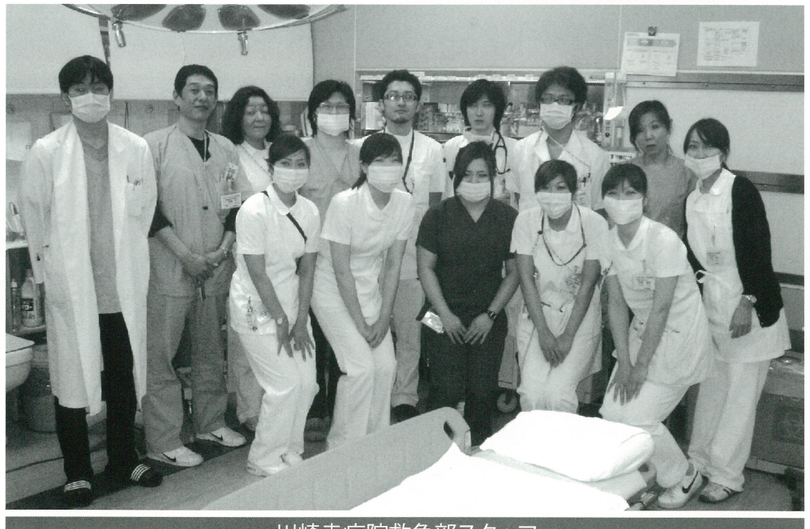
今回は、こうした両院の取り組みを紹介いたします。

川崎幸病院

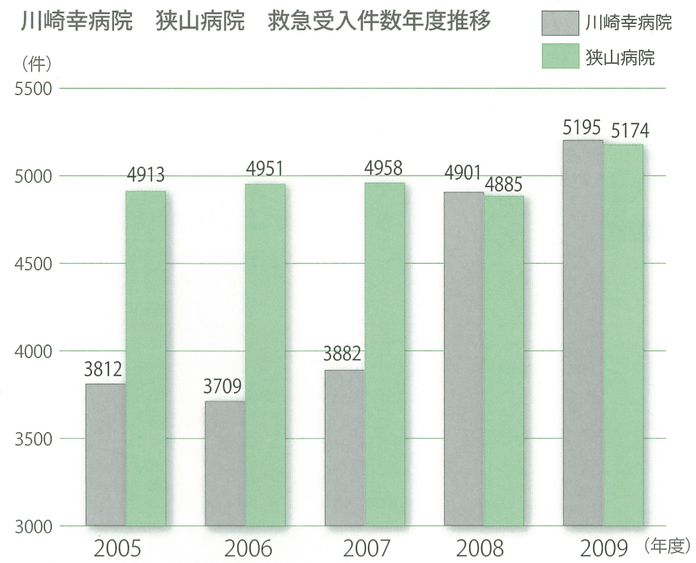
4年前の2006年度における川崎幸病院救急受入件数は3,709件。これはその前年をも下回る数字で、加えて、受入断りも頻発している状況でした。

こうした中にあって、2007年秋に、石井理事長により「断らない救急」の原則が示され、これに向けた体制整備がスタート、翌2008年4月には従来の各科相乗型救急体制から、ERドクターと呼ぶ救急専従医師が各科横断的に初療、中等症・重症患者は各科専門医師が受けるという現在の救急受入体制が戦略的に構築されていきました。受入実績推移を見ると、この間、受入件数が着実に増加し始めていることが分かります。

同院の後藤救急部長は「われわれが掲げた命題は3つ、すなわち**『断らない救急』『救急は医療の原点』『専門医でなくともできる救急医療』**。ERドクター体制の整備とともにこれら命題によって職員の意識付けが進んだことも救急受入増加の大きな要因といえる。また、救急救命士の積極採用とコーディネータとしての活用（EMT科を設置）によって、医師、看護師が医療に専念できる仕組みになったことも大きい。目下の課題は、ホールディングルームがないためにやむなく転送せざるをえないケースが相当数あること、満床による受入困難例があることだが、新病院に向けてこれらの課題を克服、24時間365日フル稼働するER体制に向けて努力している」と語っています。



川崎幸病院救急部スタッフ
写真後列左から、三村救急部副部長、後藤救急部部長、吉村科長



狭山病院

2003年のさやま総合クリニック開設に伴って、病院機能を拡充した狭山病院。夜間救急入院や経過観察、overnight症例などに機動的に対応する救急・ホールディングルーム（7床）の設置は満床による受入断りを大きく減少させるとともに、ICU・CCU以外にSCU・HCU・RCUを開設、重症患者が集中しない仕組みを作り上げ、救急患者受入能力を拡大させてきました。同院の菅野救急部長（外科系）は「当医療圏（埼玉西部第一地域）には救急病院が少ないことから、当院への救急患者の重症度は高く、搬送患者の40%以上が入院となる。こうした中、当院では**"医師は皆、救急医"**という認識のもとに、積極的に救急患者を受け入れており、今後とも救急医療の充実に向けて努力していきたい」と語ります。

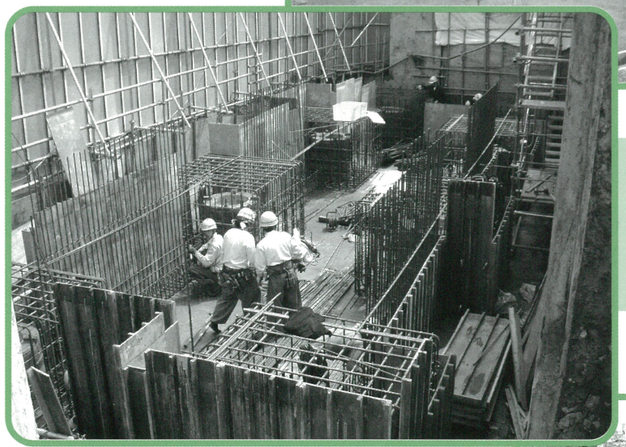
グループの中核病院である川崎幸病院、狭山病院の救急医療の充実は、グループ医療機能全体の礎とも位置づけられるものであり、今後のさらなる取組みに注目したいと思います

狭山病院救急部スタッフ
左から1人目：菅野救急部長（外科系）、3人目：青山狭山地区統括院長、4人目：小林科長

新 川崎幸病院 新築移転工事 進捗状況
（2010年4月1日現在）

病院建物を地中で支える「杭（クイ）」工事が終了し、
敷地の掘削「土工事」が始まっています。

工事現場全体風景



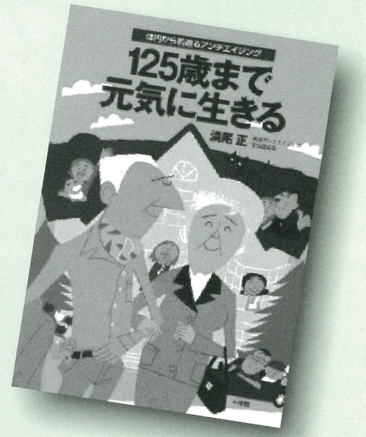
雨水貯留槽の
「配筋、型枠工事」

新 川崎幸病院
完成イメージ図

読書のすすめ

川崎幸クリニック　医師 牧野 桂花

『125歳まで元気に生きる』
～アンチエイジング医学への手引き～



『125 歳まで元気に生きる』満尾 正 著
小学館　1,575 円（消費税込）

近年、「アンチエイジング」という言葉をよく耳にするようになり、非常に多くの方がこの言葉に興味や関心をいだいていらっしゃるようです。しかしながら、この"アンチエイジング"、これほど多くの方の注意を引きつけている反面、その具体的な意味について説明出来る方は恐らくそう多くはいらっしゃらないのではないでしょうか。『125歳まで元気に生きる』はそんな方々にお勧めの一冊です。

"人間の寿命は125歳"と聞いて、みなさんはどう思われますか？ おそらく、そんなことは信じられない、とおっしゃるかも知れませんね。とはいえ、これは近年の遺伝子医学から導かれた有力な学説の一つなのです。では、なぜ人間は他生物と比べ遺伝学的天寿を全うすることが出来ないのでしょうか？ その答えを追い求めていくと、そこには今までの医学のあり方、すなわち「病気になってから、病気を見つけて治療する」ことの限界が見えてくるといえるかもしれません。

アンチエイジング医学とは「オプティマールヘルス」という、人が健康で元気に生きられるレベルの基準を新たに設け、全身の細胞一つ一つが本来持つ機能を十分に発揮出来る状態を作り出すことによって、人間本来の健康な命を保っていくことを目的とした総括的な医療分野です。本書ではこのアンチエイジング医学の具体的な方法が詳細かつ分かりやすく説明されています。

大まかな流れを申し上げると、まず、自覚症状を聴取し、血液検査（特殊検査を含む）、生理学的検査、毛髪有害重金属検査などを用いて全身の状態を把握、そのうえで、サプリメントなどによって不足栄養素を補うとともに、食事や睡眠運動など生活のアドバイスを行います。さらに、体内に有害重金属（水銀、砒素、鉛、アルミニウム、カドミウム、ニッケルなど）が蓄積していると予想される場合には、それらを体外に排出させて細胞を蘇らせるため、「キレーション」という点滴治療を行います。有害重金属は様々な疾患や老化の原因になりうることが指摘されており、大気や土壌、水質の汚染、汚染された食品、食品添加物、喫煙などがその蓄積の原因といわれています。また、私たちが日頃食べている野菜のほとんどは痩せた土壌で科学農法によって育てられているもので、こうした野菜には本来含まれているはずの栄養素が極端に不足（50年前の野菜に比べて、20%程度のビタミンしか含まれないというデータもある程）していることも指摘されています。

このように本書では、人間の体の仕組みから、今日の私たちを取り巻く自然、環境、食物に関する問題点、これらへの対応などが述べられています。
みなさんもご一読のうえ、「アンチエイジング」を実践、心身ともに健康長寿を目指してみませんか。

牧野 桂花（まきの けいか）
日本内科学会認定内科医／日本救急医学会救急科専門医／
日本抗加齢医学会専門医／キレーション治療認定医／
American Board of Hypnotherapy Certified Hypnotherapist

趣味探訪

ヴァイオリンに魅せられて

川崎幸クリニック　副院長　九島　健二

私がヴァイオリンと出会ったのは今から約半世紀前、私が４歳頃のことで、母親に連れられて目黒の実家近くのヴァイオリン教室に通ったのが始まりです。はじめの頃は、クリスマスや誕生日に教材の小曲を家族に披露しては悦に入っていたものですが、当時の技術からすれば、おそらく聴かされていた家族にとってはさながら我慢大会であっただろうと想像します。それでも両親は息子可愛さの余りか、８ミリ映画に記録までしてくれたものです。

ヴァイオリン教室には、ヴァイオリンサイズが１つ上の段階まで通い続けましたが、小学校に入るや、昆虫採集や自宅近くの空き地で行う野球が楽しく、ヴァイオリンレッスンの方はさぼりがちとなり、ついにはやめてしまいました。

ところが、中学校に入ってクラシック好きの友人に出会い、一緒にさまざまなクラッシクをレコードで聞いているうちに、ヴァイオリンへの情熱が序々に沸き起こり、ついにはその気持ちを抑えられず、高校入学時には再びヴァイオリンを購入、演奏を再開しました。この時、技術はそれ程進歩していないはずなのに、ヴァイオリンサイズの大きさからか、その豊かな音色に心動かされ、本格的にレッスンを受けたいという気持ちになったのです。

とはいえ、当時は大学入試と言う難関が日々迫ってくる時期で、レッスン再開はとにかく大学入学を遂げてからということになりました。当時の私は音楽を聞いたり、陸上部で駅伝を走ったりで、勉強の方はあまり熱心ではありませんでしたが、両親と兄の影響もあり、医師になりたいという気持ちを持っていましたので、浪人生活を経て、弘前大学の医学部に入学しました。

大学入学と同時に始まった下宿生活では、同宿の弘前大学フィルハーモニー管弦楽団（弘大フィル）の先輩の影響で同楽団に入団、同時に東京芸術大学（芸大）卒の岩田幸子先生にも師事、ヴァイオリンの個人レッスンを受けるようになりました。現在も同様のようですが、オーケストラに入ると、医学部に入ったのか、音楽部に入ったのか分からないような音楽一色の毎日となり、やがて相応の難曲をこなすようになってきます。そうした中、大学５年生の時、島根医大の合奏部から、全国の医学生を集めたオーケストラをやろうという趣旨の手紙を大学宛に受取りましたが、これによって、ほどなく各大学のオーケストラが結集、全日本医科学生オーケストラとして第１回演奏会が実現、これに私も参加することが出来ました。今も続くこの演奏会では、今や世界的指揮者となっている大野和士さん（当時、東京芸術大学学生）が指揮者としてタクトを振るなど、今、思い返せばなかなかに豪華な顔ぶれでした（つい最近も、このオーケストラの同窓会で病院コンサートを開催、世界で活躍する大野さんの指揮で演奏するという贅沢を味合わせていただきました）。

◀左は全日本医科学生オーケストラで演奏する私
右は親の心子知らずで、ヴァイオリンには興味を示さず、ベイスターズに夢中な息子と一緒に楽しむ私。浜スタのスタプリタイムから▶

さて、大学卒業後は昭和大学第３内科に入局、医師としての修行の日々が始まり、しばらくは演奏出来ない日々が続きましたが、そうした中でも、昭和大学のオーケストラには数回参加していました。石心会入職後も演奏活動を継続、全日本医科学生オーケストラには創立以来、今日まで継続して参加させていただいております。先日開催された同オーケストラ第20回記念演奏会は、紀尾井ホールを会場に、ソリストに東京交響楽団のコンサートマスター大谷康子さんを迎え、当クリニックの非常勤医兼指揮者の石毛保彦氏の指揮により盛大かつ成功裏に行なわれました。

この時、大谷さんからは、「同じ川崎で仕事をしてるんだから、ぜひ、川崎幸病院でコンサートをやりましょう」という言葉をいただきました。大谷康子さんといえば、文化放送が企画した『社会人のための音楽教室』で、大谷さんから直々にレッスンを受けたこともありました。

Symphonie 4
G dur

音楽活動としては、もう一つ、社会人オケの新宿フィルハーモニーにも所属、半年に一度の演奏会に出演しています。この楽団は様々な職業の方で構成されている、なかなか意欲的な選曲をする団体で、来る5月30日にはマーラーの交響曲第４番を演奏する予定です。この作品は中学生の頃、レコードで聴いて憧れていた曲なので練習も楽しく、今から本番が楽しみです。

オーケストラ以外の演奏活動としては、一昨年の川崎幸クリニック10周年記念イベントで、石毛先生、当クリニックの滝沢さん、川崎クリニックの高橋先生達との弦楽合奏で、モーツアルトのディベルティメントからの抜粋を演奏させていただきました。これは皆様の前での演奏デビューでもありました。

このようにヴァイオリンと共に歩んできた私ですが、近い将来、プロの方にも参加していただき、皆様に楽しんでいただける病院コンサートを開催したいと胸ふくらませております。さらには、職場でオーケストラを編成して、ミューザ川崎で演奏会!!!、という夢も描いているところです。

Violin and Orchestra

Music Salon ミュージックサロン

今回は、さやま総合クリニック「第27回ヘルシーコンサート」の模様をお伝えします。

～ロシアン・クラシックの調べに酔う～

今回の出演は若手実力派ピアニストで、特にロシアン・クラシックの演奏に定評のある川崎智子さんです。
時に悲しげに、時に高揚感をもって奏でられる名曲の調べに、聴衆の心は心地よく酔いしれました。

★ 日時　3月20日（土）18:30～20:00　「ロシア風 ～ 川崎 智子ピアノリサイタル」
★ 会場　3階ピアノホール
★ 出演　川崎　智子（ピアノ）
★ 曲目　ボロディン：「小組曲」より1番「マズルカ」　クライスラー＝ラフマニノフ：「愛の喜び」
　　リャードフ：「３つの小品 op.11」より「プレリュード」　他
★ 聴衆　50名

★ 演奏家プロフィール　川崎　智子

桐朋学園大学ピアノ科卒後、ニューヨークにてC・ローゼン、オーストリアにてR・ケレル、A・イェンナーに、モスクワ音楽院にてミハイル・ヴォスクレセンスキー教授に師事。カラブリア国際ピアノコンクール（イタリア）、リヴィエラ・デル・コネロ国際音楽コンクール（イタリア）ピアノ部門最高位およびオーディエンス賞受賞、トラニ国際コンクール（イタリア）入賞およびディプロマ取得ほか、海外コンクールで入賞。2000年モスクワ音楽院大学院を首席卒業。帰国後は毎年、紀尾井ホール・カザルスホール等でソロリサイタル、サントリーホール・東京文化会館などで室内楽、コンチェルト演奏、NHK-FMリサイタルに出演。現在、洗足学園音楽大学・同短期大学講師。

☆ヘルシーコンサートのいわれ☆

2003年3月、狭山総合クリニックの院長に就任した青山医師（現 副理事長兼狭山地区統括院長）が、クリニックを診療の場としてだけでなく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していますが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年のショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニスト ユンディ・リ が練習用に愛用したものです。

石心会グループの活動（2010年1月～3月）

川崎幸病院

● 1月15日　川崎地区新年会（日航ホテル）
● 2月10日　看護師復職支援セミナー（平成21年度　第5回目）開催　参加者7名
● 2月27日　看護部・コメディカル部・事務部合同研究発表会開催（味の素健保会館・幸警察署隣り）
　医師は山本 晋副院長（大動脈センター長）が参加
　結果　◆金賞 / CE科　◆銀賞 / 内視鏡科　◆３位 / 手術室　◆４位 / 放射線科　◆５位 / 検査科
　従来の事務・コメディカル部の合同研究発表会に初めて看護部も加わり、
　26演題について一年の研究の成果が発表された。看護部が参加したことにより、
　今まで以上に部署間の業務の理解と連携を深めることができた。　参加者 約100名
● 3月 5日　保育室 3歳児卒園遠足（横浜アンパンマンこどもミュージアム＆モール）
● 3月24日　川崎市病院協会　優良職員表彰
　◆経理課 / 近森 正昭　◆２階南病棟看護師 / 五所 美穂　◆医療相談科 / 浦山 節子
● 3月24日　防災訓練　参加者30名
● 定例救急隊勉強会
　2月8日・9日　『吐下血搬送患者の症例発表と消化器救急疾患について』講師：消化器内科 / 大前 芳男先生　参加者22名
● 市民健康講座
　3月6日　（川崎区）桜本2丁目町内会健康講座『おしりの病気とその治療の最前線』　講師：外科 / 太田 竜先生　参加者26名
● 川崎南法人会　女性部会健康講座
　3月19日　『乳がんは痛いの？こわいの？さびしいの？～乳がんの治療最前線と緩和ケア～』
　講師：外科 / 高橋 保正先生　参加者41名
● 院内勉強会
　3月30日　『内視鏡的粘膜切開剥離術について』内視鏡室運営委員会　講師：消化器内科 / 藤原 裕之先生　参加者30名
● NST勉強会

1月 7日	腸疾患	2月５日	胆道疾患	3月 5日	糖尿病
15日	イレウス	2月12日	膵疾患	3月12日	肥満
22日	黄疸	2月19日	腎不全	3月19日	神経性食欲不振症
29日	肝疾患	2月26日	末期癌	3月26日	低栄養

川崎幸病院 中原分院

● うるおいコンサート
　1月23日　第14回うるおいコンサート　合奏：カルテットメゾフォルテ
　3月20日　第15回うるおいコンサート　演奏：いこいシルバーハーモニカバンド
● 公開講座
　1月30日　『誰でも、家でも、座って簡単に！～寒い時こそ、体を一緒に動かしませんか？～』
　講師：川崎幸病院中原分院リハビリテーション科 / 秋山 文　参加者34名
　2月20日　『病院で受ける検査結果の見方 ～この項目検査すると何がわかるの？～』
　講師：川崎幸病院検査科 / 村田 やよい　参加者21名
　3月13日　『エコライフからメタボを考えると』
　講師：川崎幸病院副院長 内科部長 / 沢　丞　参加者36名
● 院内勉強会
　1月27日、2月4日　『ワーファリンの基礎知識』　講師：エーザイ株式会社
　2月18・23日　『抗癌剤の副作用対策について』 講師：大鵬薬品株式会社
　3月25日　『結核対策』 講師：ファイザー株式会社

狭山病院

● 1月8日　石心会狭山地区合同新年会（AZGRACE）　参加者310名
　※同時に永年勤続者 54名（25年：1名　20年：4名　15年：8名　10年：4名　5年：37名）
● 2月6日　研修医症例発表会（18題発表）　参加者 71名
　※研修期間中に印象に残った症例を取り上げ、初期研修医5名、後期研修医13名が症例を発表しました。
● 2月27日　第12回コメディカル部発表会（8題発表）　参加者111名
● 院内勉強会
　2月25日　『タバコの害と禁煙補助薬について』　参加者 16名
　3月 8日　『癌研有明病院での研修報告～狭山病院における化学療法の方向性～』　参加者 74名
　3月25日　『第2回 診療報酬勉強会』　参加者 95名
● 地域医療連携・公開カンファレンス
　1月29日　『めまいの診断と治療』 講師：獨協医科大学越谷病院　耳鼻咽喉科 准教授 / 堤　剛　参加者 83名
　2月12日　『認知症におけるBPSDへの対応』
　講師：東京都健康長寿医療センター　看護部 認知症看護認定看護師 / 白取 絹恵　参加者112名
　2月26日　『MRSA・MDRPに対するICTとしての対応 ～看護師の立場から～』
　講師：石心会狭山病院　看護部 科長 / 佐藤　逸
　『de-escalationのススメ』
　講師：石心会狭山病院　副院長 / 青島 正大　参加者 57名
　3月19日　『高血圧・メタボリックシンドロームに潜む二次性高血圧の診断と治療』
　講師：東京女子医科大学　内分泌内科 / 田辺　晶代　参加者 74名

川崎幸クリニック

● 糖尿病講座　2月 3日　参加者10名
● 気功教室　講師：臨床心理士 / 稲富 正治
　1月20日　参加者13名　2月24日　参加者8名　3月24日　参加者2名
● 心理相談室公開講座
　2月10日　『思春期の親ばなれ・子ばなれ』　参加者 2名
● 要援護高齢者 権利擁護事業研修会
　3月31日　『あおば長寿まつり』（青葉区保健福祉センター内）　骨密度測定　参加者140名

石心会グループの活動（2010年1月～3月）

川崎健診クリニック

- 1月20日～21日　社団法人全国労働衛生団体連合会　VDT健康診断実務講習会　1名参加
- 1月22日　社団法人全国労働衛生団体連合会　選別聴力検査実務講習会　1名参加
- 2月12日～13日　社団法人全国労働衛生団体連合会　生理機能検査講習会　1名参加
- 2月25日～26日　社団法人全国労働衛生団体連合会　臨床検査技師講習会　1名参加
- 2月26日～27日　社団法人全国労働衛生団体連合会　医師・診療放射線技師等講習会　2名参加
- 3月19日　社団法人全国労働衛生団体連合会　労働衛生検査講習会　1名参加

さやま総合クリニック

- 糖尿病教室
  2月4日　『運動療法」について』講師：理学療法士 / 山谷 あずみ　参加者15名
  3月4日　『減塩をしましょう』 講師：管理栄養士 / 蒲池 裕子　参加者15名

さいわい鹿島田クリニック

- 2月28日　職員旅行　劇団四季『アイーダ』鑑賞、BiCE TOKYO（カレッタ汐留47F）にて食事　参加者 35名
- 3月 3日　子宮頸癌(HPV)ワクチン勉強会　主催：グラクソスミスクライン　参加者 15名
- 3月 8日　子宮頸癌ワクチン（サーバーリックス）　接種開始
- 3月18日　肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス）勉強会　主催：萬有製薬　参加者30名

さやま腎クリニック

- 3月 2日　関東信越厚生局と埼玉県との共同による社会保険医療担当者の個別指導（新規）
- 3月13日　バイエル透析食レシピコンテスト佳作入選表彰式
- 院内勉強会
  2月22・23日　カーボスター勉強会　参加者50名
  3月11日　DBG-03について　参加者 8名
  3月17日　リンについて　参加者41名

昭島腎クリニック

- 院内勉強会【透析患者さんの勉強会】
  1月29日・30日　『食品に含まれるリンについて』 講師：管理栄養士 / 高橋 良枝　参加者76名
- 職員勉強会
  3月11日　『透析患者のリン管理を考える』 講師：中外製薬　参加者30名

アルファメディック・クリニック

- 3月11日　消防訓練　参加者32名

新緑会脳神経外科

- 院内勉強会開催　参加者　43名
  3月11日　講演1『ＢＡＤＳ（遂行機能障害症候群の行動評価）の紹介』
  講師：リハビリテーション科 作業療法士 / 市川 静香
  講演2『放射線検査による人体への影響について』講師：検査・放射線科 診療放射線技師 / 仙田　学
  講演3『インシデント報告と対策について』講師：サイバーナイフセンター長 / 佐藤 健吾

立川介護老人保健施設わかば

- 勉強会【施設内】
  1月27日　嘔吐物の処理方法　講師：白十字
  高齢者への回想法伝達講習　講師：作業療法士　参加者　24名
  2月24日　石心会研修報告（初級）　講師：研修参加者
  車椅子上での姿勢修正方法　講師：作業療法士　介護福祉士　参加者　23名
  3月24日　石心会研修報告（主任・中堅）　講師：研修参加者　参加者　20名
- 勉強会【施設外】
  2月12日　東京都老健大会　参加者（演題発表1名、その他6名）
- 1月16日　東京石心会新年会
- 3月 6日・7日　若葉町文化祭　展示部門で参加

特別養護老人ホームオリーブ

- 1月28日　狭山市社協ボランティア講座　施設見学・体験受入　6名
- 2月22日～24日　山王中学校１年生徒の体験学習受入　6名
- 3月 6日　ボランティアによるフルート演奏　演奏者 3名　参加者45名
- 3月11日　夜間想定消防訓練実施　参加者26名
- 3月13日　地元フラダンスグループ『アロアロ』によるフラダンス披露　演者10名　参加者42名
- 3月16日　ボランティアによる歌と、マジックショー　演者4名　参加者48名
- 3月23日　ボランティアによる歌と大正琴合奏　演者5名　参加者46名

狭山市入間川・入間川東地域包括支援センター

- 地域活動
  1月12日、3月1日・10日　入間川地区民生委員、入間川東地区民生委員との定例情報交換会
  （狭山市社会福祉会館）　参加者 延63名
  2月26日　『ちょっとお茶しませんか』（上諏訪コミュニティーセンター）　参加者 50名
- 2月18日　『認知症サポーター養成講座』（入間川中学校）　参加者138名
- 3月30日　平成21年度第4回『日常生活圏域会議』（地域ケアセンター会議室）　参加者 16名

立川市北東部わかば地域包括支援センター

- 地域活動
  1月16日・22日、2月17・19・20日、3月20日　男の料理教室（若葉会館、幸学習館）　参加者 延102名
  1月22日　終の住処はどこ？ 学習会『有料老人ホームについて』（けやき台団集会所）　参加者43名
  1月29日　家族介護教室『腰を守る介護術』（さかえ会館）　参加者14名
  2月26日　認知症サポーター養成講座（若葉小学校）　参加者36名
  3月13日　住み慣れた街で最期まで『みんなで考えよう在宅医療』（わかば会館）　参加者43名
  3月17日　保健福祉講座『ぴんぴん長生きコロリの食べ方術』（幸福祉会館）　参加者45名